

上河原崎前山遺跡 (かみかわらざきまえやまいせき)

所在地：つくば市上河原崎字前山403-3番地ほか

調査期間：令和元年8月1日～令和2年3月31日

調査面積：6,871 m²

委託者：茨城県土浦土木事務所つくば支所

調査原因：上河原崎・中西特定土地区画整理事業

調査機関：公益財団法人茨城県教育財団 (つくば上河原崎事務所)

TEL: 029-225-6587 <http://www.ibaraki-mabun.org>

1 遺跡の概要

上河原崎前山遺跡は、つくば市南西部、西谷田川左岸の標高約20mの台地上に立地しています。当遺跡の周辺には、元宮本前山遺跡や下河原崎谷中台遺跡などを中心とする古墳時代の遺跡が点在し、中でも古墳時代中期(約1,600年前)の集落跡が多く確認されています。当遺跡の発掘調査は今回が初めてで、古墳時代を中心とする集落跡を確認しました。



遺跡位置図（「いばらきデジタルまっぷ」より）

2 調査の成果

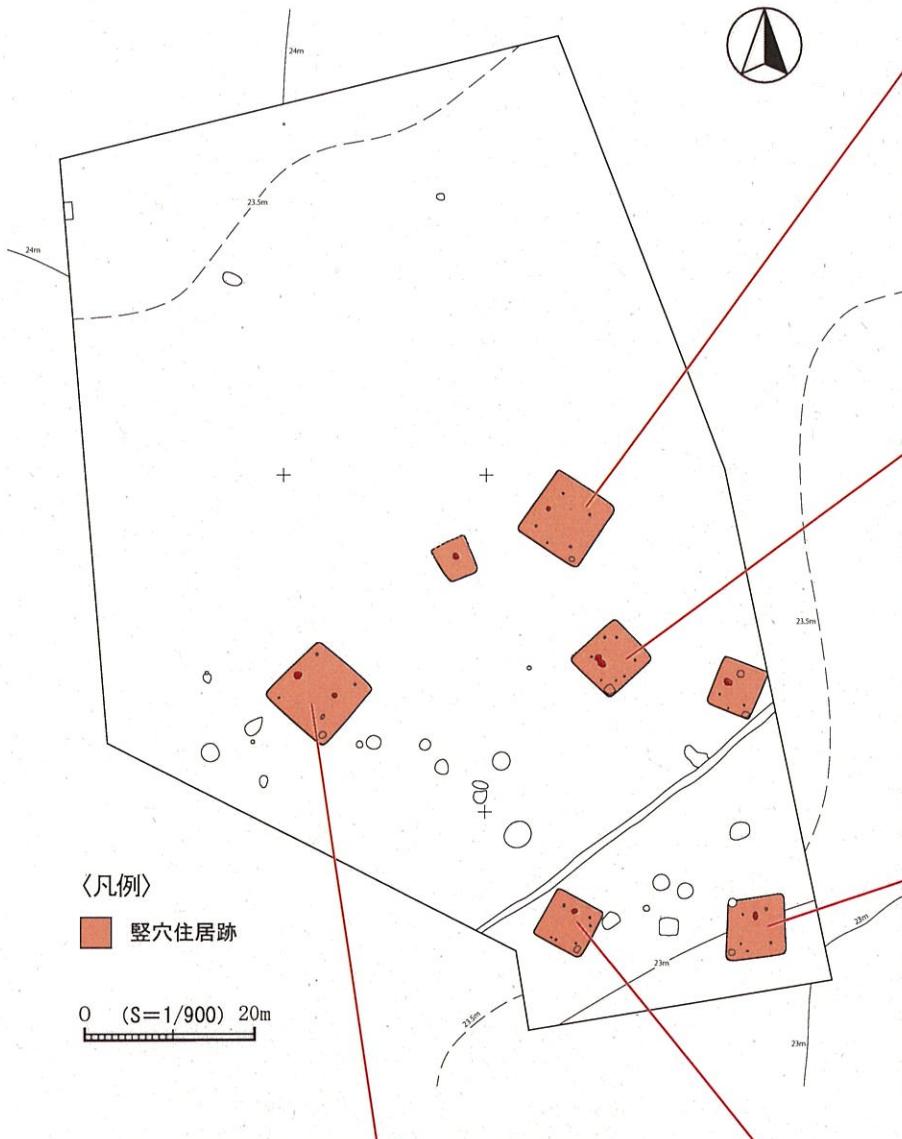
今回の調査では、現在までに竪穴住居跡7軒、土坑28基、陥し穴1基、溝跡2条、石器集中地点2か所を確認しました。住居跡は全て古墳時代中期のもので、短期間に営まれた集落であったことが明らかになりました。住居跡は調査区の南側に集中しているため、集落の北端部分にあたる可能性があります。主な出土遺物は、土師器の高壺や壺、甕など一般的な土器類のほか、勾玉やガラス製臼玉などの小さな玉類、鉄斧や舟形土製品などの特徴的な遺物も出土しました。ガラスや鉄といった素材は入手困難なものであり、マツリで用いられたと思われる舟形土製品も茨城県では類例が極めて少ない資料です。こうした遺物は、他地域との交流・交易によってもたらされたと考えられ、地域の様相や当集落の性格を考える上で貴重な資料となります。



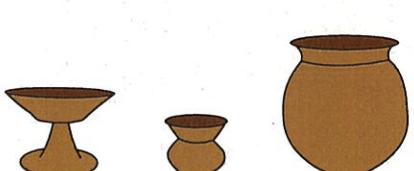
真上からみた調査区（写真左が北）



古墳時代中期の舟形土製品



最も大きい壺穴住居跡・一辺約9m
(第4号壺穴住居跡)



11月17日(日)に第3回発掘調査遺跡現地説明会を石岡事務所・中津川遺跡で開催します。心よりご参加をお待ちしております。

この資料は、調査中の情報であり、最終的な結果ではないので、引用・掲載はご遠慮願います。



多数の土器が出土した貯蔵穴
(第1号壺穴住居跡)



コーナー部の土器と炭化材
(第3号壺穴住居跡)



遺物出土状況 (第5号壺穴住居跡)



壁際に散らばっている土玉
(第6号壺穴住居跡)



石の勾玉、ガラスの臼玉